

読賣新聞

2005年(平成17年) 10月19日 水曜日

* M6.5級起こる活断層

確率で地図に

産総研

全国の主な活断層について、今後30年間でマグニチュード(M)6.5以上の地震が起こる確率を詳細に記した「全国主要活断層活動確率地図」を、産業技術総合研究所(茨城県つくば市)が作成し、18日に発表した。

最も確率が高いのは、糸静線断層の一部である長野県の松本盆地から諏訪盆地にかけて走る牛伏寺断層で、25.21%だった。以下②中央構造線の一部である和歌山県北部の根来断層11.58%③山形盆地西縁の山辺断層10.01%④石川県中部の石動山断層9.86%⑤神奈川県東部の衣笠断層9.51%の順。

産総研では、国内の主な断層帯98か所を290の短い断層に分けて分析。今後30年間に地震が起こる確率が3%以上の活断層を赤色、0.3%以上をオレンジ色などと色分けして地図に表示した。